

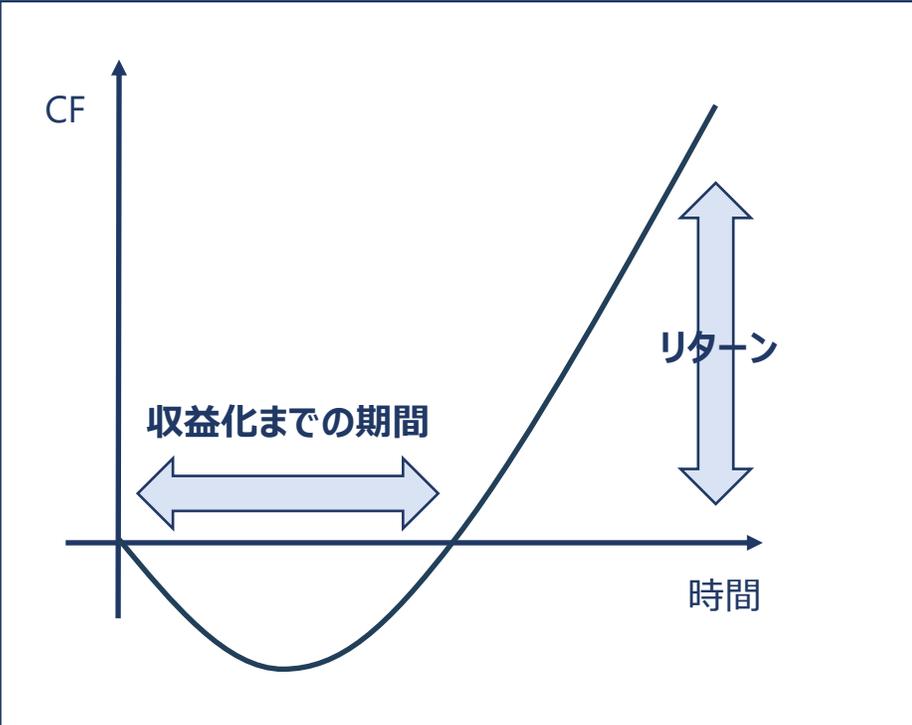
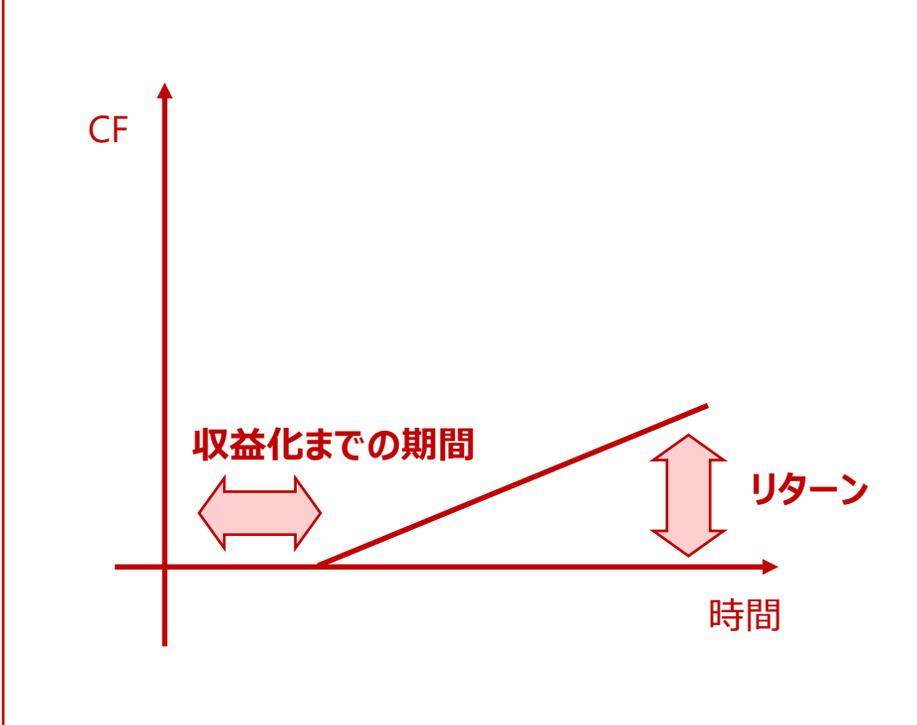
堅実型ディープテックスタートアップ

～正解はない。新規設立法人のひとつの生存戦略として～

記載内容は個人の考えです

従来型（ハイリスクハイリターン型）

堅実型（ローリスクローリターン型）

<p>成長曲線 イメージ</p>		
<p>主な事業形態</p>	<p>有形商材の提供</p>	<p>研究開発・エンジニアリングなど役務の提供</p>
<p>研究開発費</p>	<p>自社が負担</p>	<p>顧客が負担</p>

ペプチドリーム株式会社 (4857)

マイクロ波化学株式会社 (9227)

<p>事業形態</p>	<p>ペプチドリーム</p> <p>ペプチドリーム社公表資料にもとづき作成</p>	<p>マイクロ波化学</p> <p>マイクロ波化学社公表資料にもとづき作成</p>
<p>顧客 (例)</p>	<p>医薬メーカー (Novartis、Genentech、武田薬品工業、アステラス製薬など)</p>	<p>主に化学メーカー (三井化学、三菱ケミカル、住友化学、旭化成など)</p>
<p>提供価値</p>	<p>ペプチド医薬シーズ探索・開発の迅速化・高確率化</p>	<p>マイクロ波化学プロセス・設備の設計および工業化</p>
<p>競争力源泉</p>	<p>PDPS (Peptide Discovery Platform System)</p>	<p>マイクロ波技術プラットフォーム</p>

研究開発フェーズから
収益化できる

“開発投資”の事実をもって
顧客課題の大きさを測れる

プロジェクトの上市により
ストック収益を見込める

労働力への依存度大
事業スケールが難しい

顧客依存度が高まる
事業の自由度低下

ペンディング案件発生による
機会損失

自社保有の知的財産権
の自由度確保

勝ちパターンの特定・集中
("なんでも屋"にならない)

自社プロダクトの
ロールアウト

高い契約単価
を実現できるか

宇宙開発、核融合、植物工場——。

科学技術（ディープテック）の産業化には、膨大なヒト、モノ、カネが必要になります。
一方でディープテックには、人類がまだ見ぬ世界へ、我々を連れて行ってくれる無限の可能性が 있습니다。

従来のディープテックスタートアップでは、起業初期にリソースを研究開発へ集中させてプロダクトを完成させ、上市後に一気に収益拡大を目指す、いわゆるJカーブ型モデルが勝ちパターンとされてきました。

しかし、スタートアップの作り方に絶対的な正解はありません。
昨今では、本資料でご紹介したような「堅実型」のディープテックスタートアップも、多く見られるようになってきました。

私のご縁あって、これまで堅実型スタートアップをいくつも渡り歩いてきました。

堅実型スタートアップは、一部で「受託」と揶揄されることもあります。
正直に言えば、若き日の私自身も、Jカーブを掘るハイリスク・ハイリターン型のスタートアップに憧れを抱いていました。

しかし、経営や事業を知れば知るほど、そして人間はひとりひとり異なるという当たり前の事実を理解するほどに、堅実型も含め、さまざまな選択肢があってもよいのではないかと考えるようになりました。その思いから、本資料を作りました。

ご自分の会社の「戦い方」を考えておられるみなさまにとって、本資料が少しでも参考になれば幸いです。

End of the Document